

高島中 ○寺田瑞穂

日本生活医学研 津野貞子

目的 さきに津野は植物界における *Alliin* およびその同属体の分布を検索した結果、ネギ類のみならずアブラ菜科植物全般に含有されている事実を発見し、さらに他の植物についても検索を試みていた。最近中国との国交が回復し、種々の中国野菜の種子が輸入され、各地で試作されている。私達はこの中国野菜の中で特に芥藍、菜心、紅葉苔について日本産のアブラ菜科植物と同様 *Alliin* の同属体である *Methiin* を含有しているか、その存在について追求した。

方法 *Alliin* 同属体の検出方法は次の通りである。*Alliin* 同属体は *Alliinase* により分解されて *Alliin* 同属体となる理を利用して、*ppc* により *Alliin* の存在を認めようとした。*ppc* は 95% メタノール飽和石油エーテルを展開溶媒とし上昇法によった。検出試薬はニトロプルシットソーダ試薬を用いた。分解されて生じた *Alliin* にビタミン B1 を作用させ不顕化 B1 を測定した。すなわち芥藍の浸出液の上清液にニンニク液からとった *Alliinase* を加え、pH 6 に補正し 37°C に 30 分反応させ、B1 を加え pH 8 とし 60°C 1 時間反応させて B1 量を、一部には、*cystein* を添加し反応後 B1 量を測定した。

結果 芥藍、菜心、紅葉苔には、日本産のアブラ菜科と同様 *Methiin* が含有されていることは明らかとなった。部位別にみれば、花、蕾に多く、最盛期には芥藍の花に 270mg、蕾で 230mg でありブロッコリーの花 720mg%、キャベツの 570mg% には及ばなかった。本実験に使用した水耕栽培と自然環境下栽培による違いかとも思われる。ともあれ、花、蕾、とうを食用とする緑黄色野菜として今後家庭栽培用にも多く利用されるようになることと思われる。